

### 3 今後に向けて

～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

◇ 家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

◇ 学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

◇ 主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、

これからも育んでいきたいこと

◇ 教室を離れても学び続ける子どもの姿を…

### 3 今後に向けて ～今までも大切にしていたこと、これからも大切にすること～

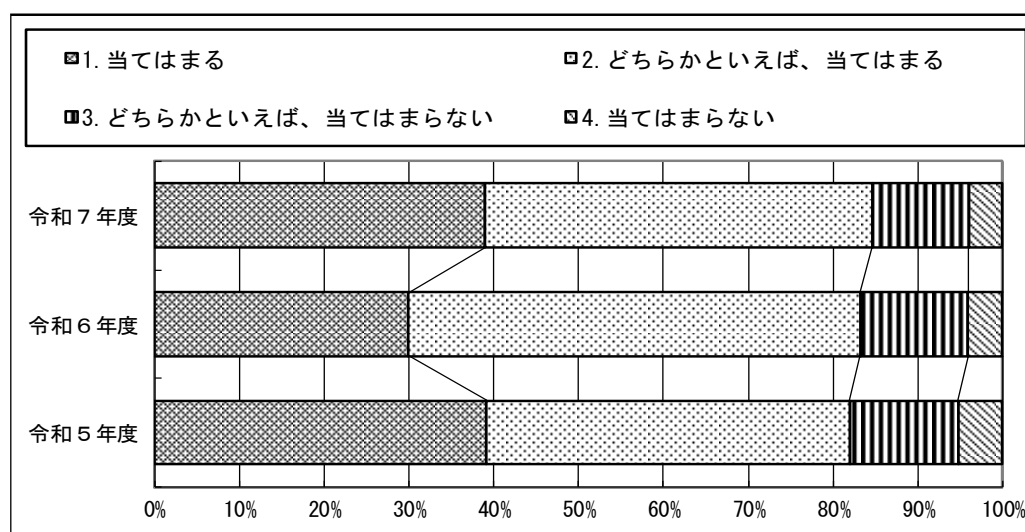
#### ◇家庭で育まれていること、これからも育んでほしいこと

#### 家庭での会話で育んでいきたいこと

【児童・生徒質問紙（５）「自分には、よいところがあると思いますか」】では、年々増加している傾向が見られ、小学校・中学校ともに約 85%の生徒が「当てはまる」と答えており、自分に自信をもって、物事に前向きな気持ちで取り組むことのできる土台作りが進められていることが感じられます。近年の社会は、グローバル化、情報化、少子化、高齢化等を背景に、社会構造の大きな変動期を迎えており、予測困難な将来を前提に生きていくことを求められています。そういった中では、一人ひとりの子どもたちが自分の可能性を信じ、たくましく生き抜いていく基礎を培うことが重要です。家庭での会話を通して、子どもが自信をもち、日々の生活に前向きに取り組むことができるよう、他の子どもと比較するのではなく、その子が持っている個性やよさ、頑張りなどを認め、子どもの自尊心、自己肯定感を高められるような関わり方の継続が大切です。さらに、学校や友人関係とは違う視点で話す機会を確保することによって、大切な保護者の方々へ「考えて、発信する」という場が生じます。児童・生徒にとっての思考力を伸ばしていくためにも、家庭での話す機会を大切にしてほしいと思います。

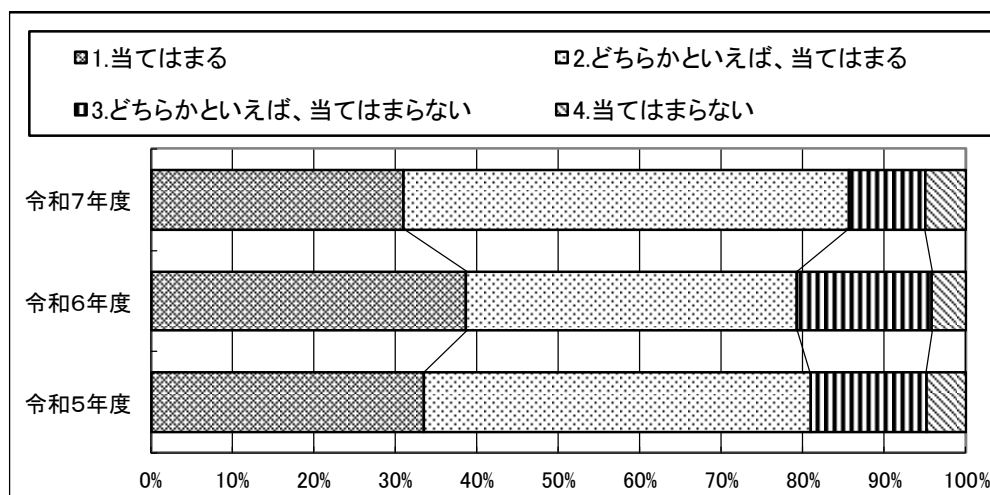
#### 【小学校】

質問番号	質問事項					
(５)	自分には、よいところがあると思いますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1 + 2
令和 7 年度	38.9	45.7	11.4	4.0		84.6
令和 6 年度	29.9	53.3	12.7	4.1		83.2
令和 5 年度	39.1	42.8	12.8	5.2		81.9



## 【中学校】

質問番号	質問事項					
(5)	自分には、よいところがあると思いますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1+2
令和7年度	31.1	54.6	9.4	5.0		85.7
令和6年度	38.7	40.6	16.6	4.1		79.3
令和5年度	33.2	47.2	14.1	4.8		80.4



## ◇学校で育まれていること、これからも育んでいくこと

**先生と児童・生徒との温かい関わりの中で、育まれていること**

今年度の質問紙調査結果や日頃の小・中学校の様子から、児童・生徒と先生の信頼関係の高さが見られます。これは寒川町の強みとして、今後も大切にしていきたいところです。

【児童生徒質問紙(10)】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」からは、先生から認められていると感じている児童・生徒が着実に増加していることがわかります。また、【児童生徒質問用紙(14)】「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」でも同様の傾向が見られており、中学校は全国平均よりも高い割合となっています。

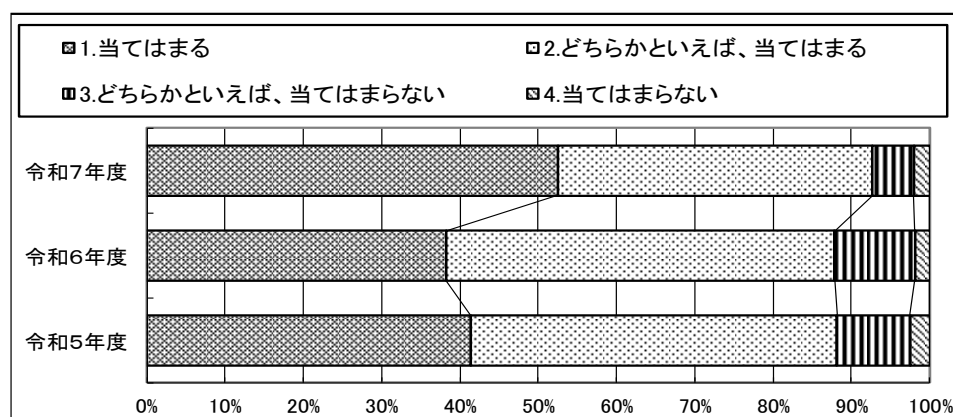
このような信頼関係が育まれることで、学校で安心して学ぶことができるという基盤が生まれ、難しいことでも挑戦しようという気持ちが育まれているといえます。そこには日頃から児童・生徒に声をかけて励ましたり、わかりやすい説明となるように工夫したりする教師の日々の積み重ねがあります。教師が児童・生徒一人ひとりに対して、丁寧に関わることで、学習に対する意欲がわき、児童・生徒もあきらめずに取り組もうとする粘り強さが育まれていくと考えられます。教師の姿がまさに子どもの姿として表れてい

ます。

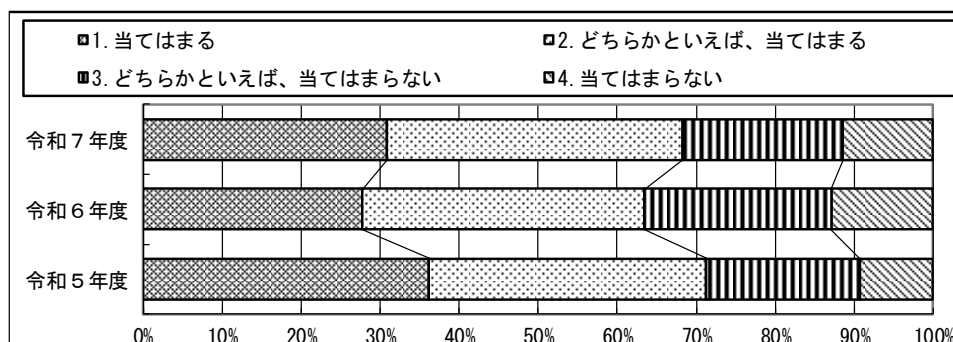
3つの育成すべき資質・能力における「学びに向かう力」が大切にしている側面に、粘り強さがあります。この「学びに向かう力」は、家庭と学校のしっかりとした生活の基盤があつてこそ、育まれていくものです。家庭における規則正しい生活習慣の確立と、教師が児童・生徒一人ひとりに対して、温かく丁寧に接することによって、物事に対してあきらめない前向きな姿勢を育成していくことができると考えられます。

## 【小学校】

質問番号	質問事項					
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1+2
令和7年度	52.5	40.2	5.3	2.0		92.7
令和6年度	38.2	49.6	10.2	1.9		87.8
令和5年度	41.3	46.7	9.3	2.5		88.0

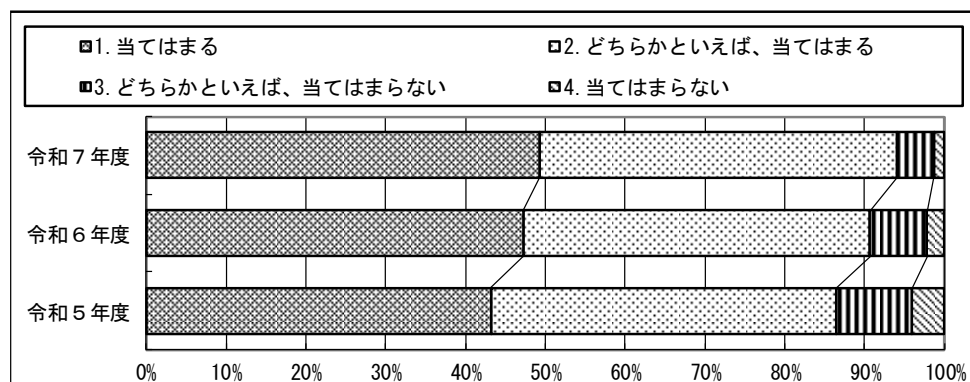


質問番号	質問事項					
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1+2
令和7年度	30.8	37.4	20.2	11.4		68.2
令和6年度	27.7	35.8	23.6	12.9		63.5
令和5年度	36.1	35.1	19.4	9.3		71.2

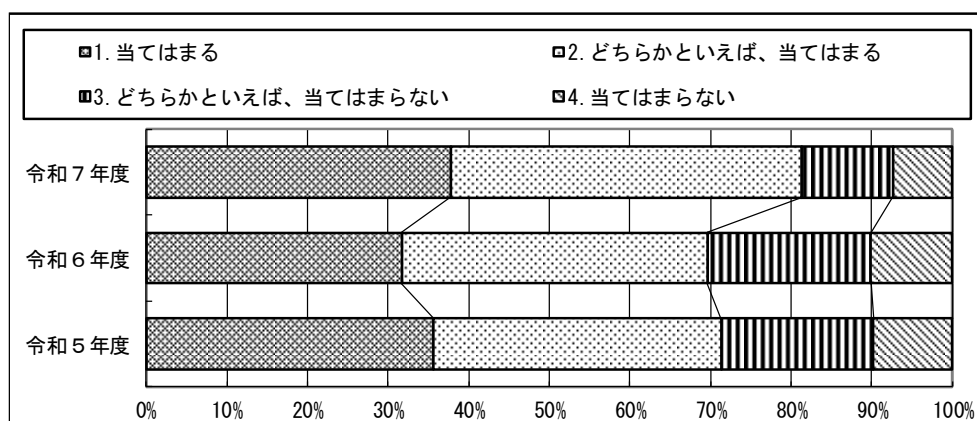


## 【中学校】

質問番号	質問事項					
(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1 + 2
令和7年度	49.1	44.6	4.7	1.3		93.7
令和6年度	47.1	43.3	7.1	2.2		90.4
令和5年度	43.0	43.0	9.5	4.0		86.0



質問番号	質問事項					
(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか					
選択肢	1	2	3	4	5	当てはまる 1 + 2
令和7年度	37.1	42.8	11.0	7.3		79.9
令和6年度	31.6	37.9	20.2	10.1		69.5
令和5年度	35.5	35.5	18.8	9.8		71.0



## ◇主体的・対話的で深い学びの授業改善を通して育まれたこと、これからも育んでいきたいこと

### スケールメリットを生かした、全町一体となって行う授業改善を

「主体的・対話的で深い学び」の授業改善においては、各校での継続的で熱心な取組が行われています。寒川町の各小・中学校では、校内研究において児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICT機器を活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究に取り組んでいます。また、さむかわ学びっ子推進委員会において、各校の校内研究の様子や状況について、情報交換を通して、互いの学校に持ち帰って参考としながら、さらに研究を深めています。

小学校を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現が教科調査の分析結果から見られている一方で、課題も散見されます。小・中学校合わせて8校という、情報交換・情報共有をしやすいスケールメリットを生かし、全町一体となって「主体的・対話的で深い学び」の授業研究を深めていくことが大切です。

しかしながら、我々が求めていることは「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が目的ではなく、寒川の子どもたちに育まれるべき、3つの資質・能力を育成することが目指すべきゴールとなります。「どんな子どもに育てていきたいか」を常日頃より教職員全体で意識し、よりよい授業づくりに向けて取り組む必要があります。

## ◇教室を離れても学び続ける子どもの姿を・・・

### 非認知能力の育成も重視していきます

今日、先を見通すことが難しい時代を生き抜くために、子どもたちには、「自分で課題を見つけ、対話をしたり新しい情報を取り入れたりする中で調整していく力」が必要となります。また、これから先、学習したことをどのように活用できるかが大事となってきます。学校では、単に知識を獲得するのではなく、学んだことを活用したり考えを伝え合ったり、さらにそこから自分の考えをまとめ、調整する学習を充実させ、「生きて働く知識」となるように努め、さらには「学びを教室という狭い空間」で完成させるのではなく、「教室を離れても学び続ける姿」を、意識しながら授業を創っていくことが必要であると考えます。家庭や地域でも、子どもたちのがんばりを認め、温かい言葉かけを行い、安心して様々な物事にチャレンジできる環境づくりにご協力をお願いします。

計算力や語学力といった学力テストなどで測れる能力のことを「認知能力」と呼ぶ一方、コミュニケーション力や意欲、忍耐力など、数値での測定が難しい能力のことを「非認知能力」と呼びます。こういった力については、これまでの学校教育でも当たり前のものとして育んできた面がありますが、寒川町ではより意識的に育てていこうとしています。「非認知能力」の一つ、目標の達成（やり抜く力）との関係性については、学習評価の観点になっている「主体的に取り組む態度」の2つの側面のうちの一つ、粘り強く取り組もうとする側面であり、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度として現れます。

また、「非認知能力」の一つ、他者との協働（他者とコミュニケーションできる力）との関係性についても、「協働的な学び」として学習の基本的な形として各学校で取り組まれているところです。こうした非認知能力を伸ばすためには、児童・生徒の内発的意欲を尊重することが重要になります。児童・生徒の一人ひとりが学習活動に興味をもち、主体的に取り組めるような課題設定、そしてそれに適した活動内容やしかけ、が求められます。さらに、結果だけではなく努力の過程を認め、評価することで、児童・生徒は自己効力感や自信が高まります。前述した【児童・生徒質問紙(10)】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」で多くの児童・生徒が感じているように、先生は一人ひとりの児童・生徒に自信を持たせる言葉かけを行ってきており、今後も続けていくことが大切です。子どもが挑戦したときに、結果だけでなく過程を振り返らせたり認めたりして、次につなげる意識が育まれることが期待されます。

以上のように、児童・生徒の努力、保護者の支え、地域の協力、学校における教育実践の改善によって、寒川の子どもたちの資質・能力は着実に積み上げられてきていると考えられています。学校、地域、家庭が、子どもたちの未来のために、これからも同じ方向を向いて、一緒に手を取り合って取り組むことが必要です。

今後も、それぞれの立場で適切な役割を果たしつつ、パートナーとして、未来の宝である「寒川の子どもたちのため」に連携、協力していきたいと思います。